



No.009

能登北部地域医療研究所



金沢医科大学 総合医療学講座

# のとげんだより

2012. 6. 1



特集 一対談

## 能登の地域医療を守るために

— 中橋教授と島中院長が、今を語る —

今年度 新しく着任しました島中公志院長(金沢医大出身)にお越し頂き、中橋毅教授と“地域医療の展望と課題”について語って頂きました(於:能登北部地域医療研究所)。聞き手:濱中

1 島中院長:今年度から院長に就任した島中と申します。金沢医科大学では消化器内科に所属し、消化管、肝臓領域の全般的疾患を診てきました。特に、上部下部内視鏡検査は諸先輩の御指導のもとかなりの件数をこなしているので当院でこの技術を生かしながら、腹痛をはじめとした極めて日常的な症状から救急疾患、癌末期患者に至るまでを幅広く対応したいと考えています。



島中公志院長

2 中橋教授:金沢医大では高齢医学教室に所属し、縁ありまして、石川県寄附講座 総合医療学教授として2010年8月1日に赴任しました。能登北部地域医療研究所では同研究所の管理・運営を、公立穴水総合病院では高齢専門外来、在宅医療、入院業務や臨床研修指導、医学生の教育指導などさせて頂いております。宜しくお願い致します。



中橋毅教授

3 島中院長:院長としての抱負と課題

当院は他の多くの病院と同じように、大学病院からの定期的な医師派遣を常勤医確保の手段としていました。しかし、平成16年度から始まった新臨床研修制度により大学病院に残る医師が減少し、当院への継続的な常勤医の派遣がなかなか困難な状況となり、私どもの病院でも幾つかの科がなくなりました。最近メディアで盛んにいわれている地域医療の崩壊とは、このような状況をさしているのかと改めて実感しております。

今のところは、病院機能を維持するために常勤医不足を非常勤医(出張医)で補わざるをえない状況です。それに伴い救急体制の一部変更や待ち時間の延長、さらには財政支援など、皆様には大変ご迷惑をおかけしておりますことを心からお詫び申し上げます。また、救急体制に関しては医療スタッフの協力のお陰で、大きな混乱もなく維持しており、スタッフの皆様にも深く感謝しております。しかし、残念ながら今後しばらくは不安定な状態が続くことが予想されます。そのような状況の中で、皆さんが思い描く地域の中核病院としての役割を果たさなければならないことは我々職員全員が自覚しており、何とかしようと考えています。

この状況を改善するには、常勤医の確保が一番の課題です。引き続き、大学から常勤医師派遣のご支援を頂き、かつ行政の協力も受けながら当院で募集活動を継続強化し、さらにその医師が長く定着するような環境整備を現在進めております。やがては自分も公立穴水総合病院に行き、困っている人々を助けたいという「志」をもつ医師がこぞってやって来るような病院にしたい。それが私の願いです。

他の病院や診療所との連携を強化し、普段は近くの医療機関で治療を受け、何かあったときには当院へ安心して受診していただけるような体制や、逆に当院では手に負えない場合に遅滞なく他の専門医療機関へ搬送できる万全の体制作りも進めております。

今後は当院に対して必要な機能を住民のみならず、その期待に応えられる病院を目指して進んでゆきたいと思っております。皆さんどうぞよろしくお願い致します。



## 病院を改善するための課題

- 病院機能の向上
- 医師の安定的確保
- 院内の活性化
- 地域医療への貢献

4 島中院長：金沢医科大学 能登北部地域医療研究所の活動状況と地域医療再生基プロジェクトの背景や経緯について、まだ良く理解していないので簡単にご説明頂けると有り難いのですが・・・

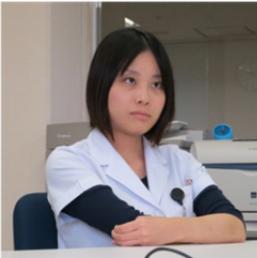
5 中橋教授：能登北部地域医療研究所が大学を出て、公立穴水総合病に設置されたことは、極めて画期的なことではないかと思えます。他では例がないように思えます。研究所の使命は「医師の育成」「地域医療への貢献」と考えています。

### 1) 医師育成のために力を注ぐ

- 医学生や看護学生を対象とした体験型の実習プログラムや高学年への参加型の実践プログラムを提供しています。
- 初期臨床研修医には1ヶ月間の地域医療研修を提供しています。特徴として、在宅診療、訪問看護、診療所活動、介護福祉活動、救急医療、包括ケアなどをプログラム化して提供し、症例検討会やポर्टフォリオ検討会で総括と評価を行っています。



井戸大介研修医  
金沢医大  
研修期間:2012.5.1-31



山口朋恵研修医  
東大病院  
研修期間:2012.4.1-5.31



天白 晶研修医  
水見市民病院  
研修期間:2012.1.1-31



内尾直裕研修医  
東大病院  
研修期間:2011.10.1-31

- 後期臨床研修プログラムの提供（地域医療専門医取得プログラム：日本プライマリ・ケア連合学会認定）  
地域の健康・疾病管理の中核として機能する病院と教育機関である金沢医科大学が一体となって、「地域が求める医療を地域で学び・地域で育つ医師」の養成を目指すものが当プログラムです。そしてこれは、前述の医師像を目指し地域に密着した日々の診療をとおして、全ての医師が備えるべき能力、総合医を特徴づける能力、家庭医療専門医が持つ医学的な知識や技術、などを身につけるためのプログラムとなっています。

### 2) 地域医療に貢献

当研究所は高齢医学科外来の開設、高齢医学科による高齢者の入院時総合評価の導入、在宅医療の強化など地域の医療ニーズに合わせた診療体制の充実も図ってきました。その中でも、特に注目される新しい取り組みが2011年1月から立ち上げた「地域の糖尿病管理プロジェクト」です。

地元で糖尿病の専門医が少ない、重症患者の治療・管理は専門医がいる石川中央医療圏の病院に委ねざるを得ない現状を踏まえた試みで、医療機関が連携して、軽症患者は地域の診療所、重症患者は穴水総合病院、最重症患者は専門医という形で役割分担する循環型地域連携パスの構築を目指しています。具体的には糖尿病に関する穴水総合病院のレベルアップとセンター化を図った上で、ICTを活用して石川中央医療圏とも連携する糖尿病の「循環型地域連携パス」構築に着手、患者さんごとのコンサルティングを受けながら、地元主体で治療・管理を続けられるスキームを整備するものです。

第1ステップとして、院内に糖尿病サポートチームを設置して、病棟や診療科を横断して糖尿病患者を一元的にサポートする体制づくりを進めています。第2ステップでは地域の診療所との連携体制を築き、第3ステップで仕上げる構想です。

専門医が不足している中で地域医療を底上げするには、新たなスキームづくりが不可欠であり、まず糖尿病で成果を挙げ、患者さんの多い高血圧、認知症などの疾患にも応用していければと考えています。

金沢医大出身の方が院長として赴任されたことは、本研究所にとっても本学との連携が強化され、心強く感じています。

### 1. 能登北部の医療環境の充実

能登北部総合医療研究所は六水総合病院5階に拠点を置き、能登北部地域で求められる人材を育成していくとともに、金沢医科大学病院をはじめ多くの医療機関とも連携して地域で求められる医療を提供する。能登北部の六水エリアにおける在宅医療を含む地域医療に貢献するとともに高齢者医療、糖尿病治療、認知症治療など地域に求められる疾病治療に力を入れている。

### 2. 地域で活躍する総合医の育成

地域では患者さまを総合的に診療し対応できる総合医の需要が高まってきている。当研究所では従来の各専門科に分化した医師育成制度から地域と密接に連携した総合的な研修に移行することにより地域で活躍する総合医の育成を目指す。そのために拠点を大学病院から地域へ移し、独自の初期臨床プログラムおよび後期臨床プログラムによる臨床研修の場を提供する。また、初期臨床研修のローテーションにおける地域医療研修枠として能登北部地域を活用し、若い医師が貴重な経験を重ねながら臨床を行える環境を提供する。

### 3. グローバルな視点からの地域医療の研究

能登北部地域の医療の現状を調査・解析し、国内外の地域と比較することでグローバルな視点から現在の地域医療に求められる情報を能登から発信する。地域での医療・介護の需要と供給の状態をはじめ、医療過剰地での救急医療・災害医療、地域での健康増進や予防医学についての疫学研究を進める。

6濱中課長：地域医療再生計画では、二次医療圏を単位として地域全体が抱える医療問題を解決する取り組みが進められてきました。その事業内容は、地域の医師確保や救急・周産期・小児科などの医療体制の強化、在宅医療の推進、IT を活用とした地域医療連携ネットワークの構築などさまざまです。現在、慢性的な医師不足や過度な医療期待による医療過誤訴訟の増大、経営の悪化による病院閉鎖など、地域医療を取り巻く環境は非常に厳しいことは周知のとおりです。今回の地域医療再生基金の拡充によって、能登北部における地域医療の再生推進が期待されるところです。



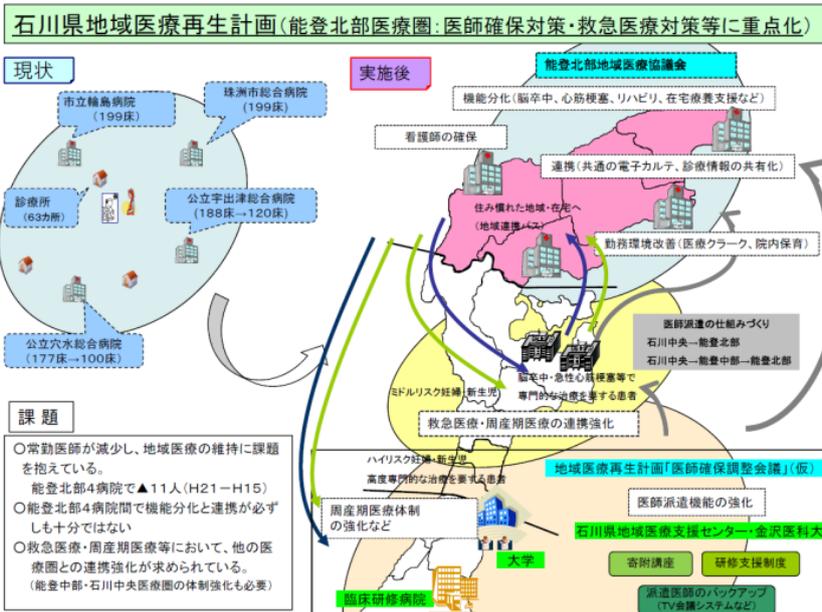
医師確保対策の年次計画

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29以降
地域医療再生計画	寄附講座による大学からの医師派遣 後期研修医等への研修支援				研修支援に伴う義務年限			
金沢大学 医学類特別枠	特別枠入学者への修学資金貸与				卒後臨床研修 修学資金貸与者の義務年限			

石川県地域医療再生計画（能登北部医療圏：医師確保対策・救急医療対策等に重点化）は以下のとおりとなっています。＜石川県地域医療再生計画より抜粋＞

能登北部医療圏における課題を解決する方策

- ①課題：能登北部4病院などの常勤医師数が減少しており、地域医療の維持に課題を抱えている。  
目標：大学の医師派遣機能の強化等を通じて能登北部医療圏の医師を確保する。  
(能登北部への直接的な医師派遣、能登中部の医師を増員し、能登中部から能登北部への診療支援)
- ②課題：能登北部医療圏に勤務する看護師を十分に確保できない状況にある。  
目標：潜在看護師の確保、新卒看護師の確保、看護職員等の勤務環境の改善、看護師の資質の向上
- ③課題：能登北部4病院の相互連携や他の医療圏との連携必ずしも十分ではない  
目標：能登北部4病院の拠点化と連携強化、他の医療圏との連携強化、周産期医療・救急医療の体制強化



7 中橋教授：医師の人材育成基盤には極端な地域格差が生じているのでは・・・

若手医師はスキルアップと資格取得を目指しており、指導医や研修プログラムが整備された病院での勤務を望んでいます。二年間の初期研修を終えた大部分の研修医は、専門医の資格がとれる病院において後期研修医となって、より高度で専門的な後期研修を受けることを希望しています。選択の優先的な条件として、専門性を高められるような指導體制や研修プログラムの充実が求められています。良い研修病院のある地域には若い医師が集中してほしい、医師を大学から派遣してもらうことが難しくなった現在、病院間、地域間で医師確保の競争が始まっていると言っても良いかもしれません。臨床研修病院として教育機能を充実させることができれば、若手医師が望んで集まってくる可能性があることを考えると、地域中核病院が生き残るための必須要件は、そこで医師を育てることができるかどうかではないでしょうか。病院として、地域として、教育能力を上げ、キャリアパスを提供していかなければならないと思います。



公立穴水総合病・能登北部地域医療研究所の努力によって、平成 22 年度は研修医 1 名、昨年は 10 名、今年は倍の 20 名の研修医が地域医療研修を学ぶために全国から能登北部の公立穴水総合病院に来て頂いております。しかし、研修医の皆さんの評価は現実的ですから、研究所や病院のスタッフは常に真剣勝負です。一生懸命指導にあたって頂いている皆さんに感謝で一杯です。

8 島中院長：このキャリアパスが日本プライマリ・ケア連合学会認定専門医「家庭医療後期研修プログラム」ですか。内容を簡単にご紹介頂けますか？

9 中橋教授：このプログラムは、地域医療の担い手となる家庭医療専門医の育成と診療体制の充実を目指した 2012 年 4 月から日本プライマリ・ケア連合学会認定の「能登北部家庭医療後期研修プログラム」です。現在、公立穴水総合病院の内科医がこのプログラムを受講中で、平成 26 年度に専門医を取得予定です。日本プライマリ・ケア連合学会認定の専門医は、能登北部では彼が第 1 号の地域医療専門医になるのではいかと思われま。



■ 3 年間のモデルスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
後期 1 年	総合内科病棟・外来						小児科病棟・外来					
後期 2 年	一般消化器外科			高齢医学科			産婦人科			総合内科		
後期 3 年	児診療所研修						総合内科・在宅療養支援センター					

<プログラムの特徴>

当プログラムの研修現場となる石川県穴水町は能登北部地域にある人口約 1 万人の町であり、その高齢化率は約 40%と 2050 年の日本の予測平均高齢化率に相当します。町内唯一の有床病院である公立穴水総合病院内には、平成 22 年 8 月に金沢医科大学能登北部地域医療研究所が設置され、穴水総合病院と一体となった滞在型の地域医療臨床研修センターが発足しました。さらに公立穴水病院には附属の児診療所（無床診療所）や訪問看護ステーションを有するほか、介護老人保健施設 あゆみの里や穴水町地域包括支援センター、保健センターなどが隣接しています。

このように地域の健康・疾病管理の中核として機能する環境と教育機関が一体となって、「地域の求める家庭医療を地域で学び・地域で育つ家庭医」の養成を目指すものが当プログラムです。そしてこれは、前述の医師像をもつ家庭医を目指し地域に密着した日々の診療をとおして、全ての医師が備えるべき能力、家庭医を特徴づける能力、家庭医療専門医が持つ医学的な知識や技術、などを身につけるためのプログラムとなっています。

10 島中院長：この仕組みが定着し、安定的な医師確保に繋がることを期待したいですね。院長としても惜しめない協力をさせて頂きます（笑）。

11 島中院長：4月、5月と研修医 2 名、医学生 8 名が地域医療研修や体験実習に参加していますが、中橋先生はどのように感じておられますか？

1 2中橋教授：地域医療研修を終えた研修医や医学生は、「病院の中だけの研修では見えてこない部分がこの地域医療の研修で見えてきた。人と人とのかわりが大切。患者さんの生活を考えたとき、福祉の分野も学ぶ必要があると感じた」「訪問看護に同行するまでは、病院を退院した患者さんがどのように生活しているか考えたこともなかった。患者さんにとっては実は退院してからが始まりなのだという事を知った。」目を輝かせて感想を語っていました。4週間にわたって穴水町の診療所、開業医・クリニック、訪問看護ステーション、老健施設等で、在宅医療や地域医療を体験できたこととても良かったと多くの皆さんが感想として記録に残しています。



1 3中橋教授：初期臨床研修医の先生方から、この研修を通して地域医療に対する見方が大きく変わったとよく聞きます。

(研修医の感想より抜粋) この研修を通して地域医療に対する見方が大きく変わったと自覚しました。この研修前の地域医療に対するイメージは正直高いものではありませんでした。診療所は病院の下にあるものと思い込み、福祉・介護また地域の救急医療体制に関しては、考えたことすらないのが正直なところでした。大学医学部・卒後臨床研修を通して、高度な診断と適切な治療に関する知識と経験を学んできましたが、地域医療研修で、その背景にあるものに対しても学ぶ機会を得たことはとても良かったと思います。今回の研修は1ヶ月間と短い期間でしたが、今までの私の考えを一変させるものだったと思っています。診療所の役割、地域のさまざまな医療サービス、地域の医療資源の実態など、病院に居たのでは見えてこないものを数多く体験し理解できたことは大きな財産だったと考えています。

1 4島中院長：人は財産そして能登の住民を守る城です。 公立穴水総合病院で受け入れた医学生・看護学生、研修医を大切に、現場での教育指導にはスタッフが一丸となって事にあたりたいですね。教育は医師確保のための生命線です。公立穴水総合病院と金沢医科大学能登北部地域医療研究所が同じ思いで協力し、貴重な人材を育てて参りましょう。ありがとうございました。



○問い合わせ（濱中・橋本・濱崎）  
能登北部地域医療研究所（公立穴水総合病院内）  
電話 0768-52-0655 FAX0768-52-0658  
E-mail ccm@kanazawa-med.ac.jp  
〒927-0027 石川県鳳珠郡穴水町川島タ-8